

宮中晩餐における
ルクセンブルク大公国大公殿下のご答辞

皇居
東京 平成 29 年 11 月 27 日

両陛下、

この度は、木々の緑が赤や黄に染まる紅葉の季節に大変温かいおもてなしを賜り、誠にありがとうございます。私は、今回の遠距離の旅に残念ながら同行することがかなわなかった大公妃とともに、両陛下のご招待を、ルクセンブルク国民への友情および我が大公家に対する親愛の念の確かな印と受け止めております。

陛下、

陛下は、1953年に行われたエリザベス二世英国女王陛下の即位式で初めてお会いになった私の父に、多大なる親愛と誠意を変わることなく示して下さいました。皇室と我が大公家は、国賓としての訪問、公式の席や私的にお会いする機会を通じ、誠の親交を育んできました。このような公の時間やより親密な時間を天皇皇后両陛下と共有することができ、両陛下の稀有なまでに洗練されたお人柄に触れることは、私共にとって大きな喜びです。

西洋人にとって、日本とその文明の発見は、他に例のない経験であります。私は、身分を隠しバスで日本中を旅した1981年のことを今もよく覚えております。旅の終わりに大公妃も合流し、当時新婚だった私共は、北海道などの素晴らしい景勝地を初めて訪れました。私は、その時に出会った少年少女達が遠いルクセンブルクを知っていたことに驚き、日本の教育水準の高さに感動を覚えたものです。同様に、日本の企業にも興味をひかれました。合意による意思決定を重視する日本の企業文化は、我が国の企業文化と同じではありません。また、この時、ある日本企業と我が国との橋渡しを行ったことで、個人的な達成感を得ることができました。その企業は、その後、我が国への進出を決め、今も現地で活動しています。

私の記憶には、そのほかにも、在京ルクセンブルク大使館の開設（1987年）、「ルクセンブルク・ハウス」の開館（2003年）、私が国際オリンピック委員に就任した1998年の冬季オリンピック長野大会の開会式など、日本につながる数々の思い出が刻まれております。

私は、私自身のこうした思い出に加えて、日本とルクセンブルク大公国が長きにわたり濃密で多様な関係を築いてきたことを忘れてはおりません。折しも今年、両国の外交関係樹立 90 周年に当たります。

1927 年、安達峰一郎・初代日本国大使が私の祖母であるシャルロット大公に信任状を捧呈した日から、両国の二国間関係は絶えず発展を続けてまいりました。日本とルクセンブルクはともに、国や個人の平和と安全、人権と民主主義の擁護、持続可能な開発の推進といった基本的価値のために日々尽力しています。

こうした共通の価値の擁護に取り組む両国が多国間協調主義を選択し、国際連合をはじめとする国際機関を通して緊密に協力するのは、至極当然な流れといえましょう。

両国はまた、より公正な世界の実現を願う強い思いから、開発援助の重要な貢献国であり、多くの尊敬を得ています。つい先日、フィジーの主権によりボンで開かれた国連気候変動会議 COP23 に出席した私は、両国が力を合わせてパリ協定の推進に取り組み、地球を脅かす気候温暖化に立ち向かう様子を大きな喜びとともに確認することができました。

陛下、

私共の出発の直前に、ルクセンブルクでは、我が国が日本から受注した特別な製品が日本に向けて出荷されたとの報道がございました。その製品とは、最先端の熱回収技術を駆使した特殊なパン焼き窯です。これは、伝統とハイテクを組み合わせたルクセンブルク製品に対する日本の信頼の証であり、両国が築き上げた大変有益な関係を物語るよき例です。

相違点も多い日本とルクセンブルクですが、こと経済に関しては、両国とも非常に発達し、かつ成熟しており、多様化を追求してやまないという特徴がございました。1970 年代に始まった金融協力では日本の大銀行が我が国に進出し、産業面でもハイレベルの交流が続いておりますが、現在、我々の前には、それ以外の新たな取組みの分野が広がっています。私の念頭に浮かぶのは進歩の最先端にある分野であり、一例として、医学研究、宇宙資源開発な

どがこれに当たります。両国関係のこうした進化は、両国の交流が時代への適応を繰り返しながら、共通の未来を醸成してきたことの証といえましょう。

日本とルクセンブルクの国民の間には、好奇心と尊敬に根差し、また互いの文化への憧れを通してより強化される誠実な友好関係が存在します。ヨーロッパにおいて開放的で国際色豊かなルクセンブルクの社会は、歴史の流れに影響力を及ぼすことを完全には断念しておらず、また、その切り離すことのできない一部です。私共は、そのルクセンブルク社会に対する現地の日本人コミュニティの貢献を高く評価しております。

加えて重要なのが、学術分野における緊密な協力です。創立から日が浅いとはいえ、既に大きな将来性を感じさせるルクセンブルク大学は、日本の有名大学数校との間で協定を署名いたしました。今後は学生や研究者の交流を通じて、より親密な関係が築かれてゆくことでしょう。こうした取組は、前世紀から高等教育の発展に尽くしてきた我が国の宣教師らが先鞭をつけた協力の伝統に呼応しています。

陛下、

私は、1999年に貴国を訪れた私の両親が陛下の歓迎に深く感動し心を打たれたのと同様に、この度の国賓訪問が私共の記憶に刻まれることを確信いたします。伝統への愛着と近代的なものへの開放性が他に例のない形で融合した日本は、今後も私共を魅了し続けるでしょう。陛下は、この変わらぬ「日本の魂」を体現され、貴国民の敬愛と国境を越えた尊敬を集めておられます。これこそは、私が「近代性と平和」の天皇であられる陛下に敬意を表したい所以であります。

諸閣下、
皆様、

天皇、皇后両陛下の御健康と両国民の友情を祝し、御一緒に乾杯をいたしたいと存じます。